

大型ハコモノ優先！ 熊本城ホール・熊本城見学通路の予算大幅増は納得できない！

12月11日、12月定例市議会が始まりました。予算については、熊本城の見学通路や熊本城ホールの床代について増額予算が提案されました。その他、ブロック塀等安全対策の補助制度に関わるものなど主な予算案は以下の通りです。

熊本城見学通路は7億5千万円増の18億円に！

熊本城の復旧過程を見てもらうために熊本市が建設を進めている特別見学通路。当初は10億5千万円とされていましたが、今

約4億7000万円増	耐震性向上 大型エレベーターへ変更 多目的トイレの新設 ルート延長(300m→350m) 景観のための構造変更
約2億8000万円増	視点場の新設(102㎡増設) トイレの新設(20穴)
計 約7億5000万円増	

万円の増額予算が提案されました。見学通路の総事業費は18億円となります。

熊本城ホールの床代は7億1千万円の増額補正

総事業費298億円(床代283億円、備品代15億円)とされていた熊本城ホールについて、仕様変更(エレベーターのサイズ拡大、ドリンクサービス空間の追加、舞台装置の変更な

ど)により、床代が約7億1千万円の増となる補正予算が提案されました。備品代は1億7万円の減額となるものの、熊本城ホールの整備費用は5億4千万も増えることとなります。

ブロック塀等安全対策補助制度が提案されました

大阪北部地震によるブロック塀倒壊で尊い命が失われました。こうしたことを受け、熊本市は、公共施設の早期点検とブロック塀改修に取り組んでいます。また、民有ブロック塀についても調査を行ったところ、多くの危険個所があることも明らかになり、今議会には、道路に面する民有のブロック塀の撤去

費用に対する補助を行うための予算が提案されています。補助額は1件あたり上限20万円で、210カ所分(4200万円)が計上されています。



【控室から】
身近な公共施設こそ大切に

上野 みえこ



開催中の12月議会には、桜町再開発への熊本城ホール整備事業費を7億円増額、熊本城見学通路建設費を7.5億円増額するなどの補正予算が提案されました。ゼネコンが行う大型開発やハコモノに莫大な事業費が次々増額されていくことには、首をかきげざるを得ません。しかも、市庁舎の耐震不足の問題でも、建て替えしかないような市の説明には、やはり疑問です。

市営団地にお住いの方々と、老朽化した団地の維持管理・補修等を要望した折には、限られた予算で、対応に苦慮されているようでした。

市役所議会棟の予算決算委員会室で行われた要望行動の参加者からは、「市役所を建て替える」と聞いたが、こんなにきれいな部屋のある市役所をなぜ建替えるのかわからない。古い住宅こそきれいにしてほしい」との意見が述べられました。ふかふかのじゅうたんが敷き詰められた立派な会議室を見れば、そう思われるのも当然でしょう。

450億円も税金をつぎ込む桜町再開発・熊本城ホールの事業費増額よりも、50年も、60年も経って、床や壁・ドアなどがブヨブヨになった古い団地の修繕こそ一刻も早くやるべきです。「大型開発より、身近な公共施設を優先で！」市民の当然の願いです。

日本共産党 市議会だより

熊本市中央区手取本町1-1 3階

発行：日本共産党熊本市議団

上野みえこ なすまどか 山部ひろし

NO. 1124

2018年12月16日号

電話 328-2656

FAX 359-5047



メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

HP：共産党 熊本市議団

検索

市営住宅—改善を要望・申し入れ

住まいは人権！

住民の声を受け止め、住まいの環境改善を！

快適な住環境整備にむけ、市営住宅予算の拡充を！

共産党熊本市議団と「平和と民主主義、くらしをまもる熊本市民連絡会」は12月6日、市営住宅の老朽化の改善などを求めた要請書を市に提出をしました。

あわせて、市議団が行った「市営住宅アンケート」に寄せられた声をもとに、住宅住民の皆さんとともに申し入れを行いました。

計画的な修繕や老朽化対策を求める声が次々と

要望では、外壁のはがれなどの住宅の老朽化、風呂・トイレ・台所の水回りの老朽化、湿気によるカビの発生やハトのフンなどの健康被害、バリアフリーに対する対

応など、市営住宅の住環境について多くの発言があり、快適な住環境とは言えない現状が、各市営住宅にあることが明らかになりました。

市も「経年劣化には対応する」と回答

具体的には「浴槽が深くて、男性ヘルパー来た時にしか入浴できない」、「空き部屋が多く、団地の共益費の支払いが大変。自治会運

営にも支障が出る」、「修繕を要望しても、住宅の管理会社が受け付けてくれず、市に要望が届かない」、「フローリングの床が腐ってブヨブヨ」など、どれも切実なものでした。

市も「経年劣化には対応する」と回答したので各々の要望には速やかに対応すべきです。住宅の改善にかんするご要望は、共産党市議団へどうぞお寄せください。



◆申し入れには30名以上の参加があり、さまざまな要望が出されました。

申し入れでは「改善を何度要望しても、『予算がない』といつも断られる。市はいったい何に予算を使っているのか」という声もありました。熊本市の市営住宅条例で

は、「住宅の安全・衛生に考慮し整備すること」が明記されています。

要望では、必要な修繕改修ができるよう住宅の管理予算の抜本的な増額を求めました。

■『市営住宅アンケート』に寄せられた声から

- ・昭和34年ごろに建てられた団地で築60年ほど。建て替えてほしい。
- ・住民の高齢化が進み、草刈りなどができない。草ぼうぼうの状態、近隣の方が不愉快な思いをされているのではと、心苦しい。
- ・せっかくエレベーターがあるのに、出てすぐに階段が5段ぐらいあり、車いすや歩行器で降りられない。
- ・管理人が勝手に駐車場の管理もして報酬を倍とっている。
- ・浴室の窓が壊れて2年もたつ。閉まらないのでとても心配。
- ・浴室は一日中換気扇をつけているがカビが生える。

・浴室のカビを取ってほしい。お風呂にゆっくり入れない。

・耐用年数での対応でなく、健康を害するものは早めに対応してほしい(虫・湿気)。

・私も高齢、息子も障がい者で、現在の5階から1階に移りたいが、引っ越し費用(原状回復のための費用)が高くて実現できない。

・地震後、風呂場に大きなヒビが入って心配して生活している。

・畳替えをしないと31年になるのでボロボロです。

・子どもや高齢者が入るには高すぎる浴槽。ガスをつけるにも大変。

・年に1~2度、集会所で住民の要望の聞き取り、説明会をしてほしい。